20015

Culotte Stent を必要とした PCI に対し「CLEAR Stent」が有用であった一例

Culotte StentはLMT に 2 本のステントをキュロットスカートのよう形成する手技である。KBT を 2 度行うなど複雑な手技が要求されるため、ステントの変形などのトラブルに注意する必要がある。今症例でトラブル防止も含め「CLEAR Stent」(以下:CS)を使用したところ有用であったため報告する。CS とは撮影済み動画よりステント強調像を得るソフトで、造影との組み合わせで、血管像との関係も把握できる。(以下:CS+造影)【症例】70 代男性。LAD 及びLCx 近位部に高度狭窄があり、Culotte Stentを行う方針となった。1 本目は LAD 遠位部、2本目は LMT から LCx、3本目は LMT から LAD にかけてステント留置をした。 2本目のステント留置後に Culotte 形成の手技に対し、KBT 前にワイヤーの Recrossing Point、ステント留置位置、ステント穴あけ後の変形の有無などを確認するため、CS 及び CS＋造影を行った。(詳細はポスターにて)【結果】CS を利用し、ワイヤーの Recrossing Point や留置後・穴あけ後のステント形状などの画像情報が得られ、手技に役立てられた。他トラブルも無く治療を終了することができた。【考察】血管内イメージングを用いる事無く、ワイヤーやステントの状態が確認でき、また上手く行えば、治療の流れを妨げる事無く行えるため、CS の利用は有用であると考えられる。【結語】Culotte Stentを必要とする複雑な病変に対しても、「CLEAR Stent」の使用は、手技に役立つ情報が得られるため有用である。